

札幌⇄ロンドン 列車の旅



日韓海底トンネル構想再浮上

韓国建設交通
省が近く調査

札幌発ロンドン行き列車実現か。九州と韓国の間を海底トンネルでつなぐという構想が再び浮上している。朝鮮半島を経由して欧州までつなげる鉄道ルートはいよいよ「出発進行」となるの

九州～釜山間の200キロを想定

時事電によると、韓国建設交通省は十五日、韓国南部の釜山と九州北部を結ぶ海底トンネル建設の妥当性を検討するための調査を近く行うことを明らかにした。来年初めにも調査結果が出次第、建設の是非について日本政府と協議する方針という。

同省は今月末、交通開発研究院、国土研究院、韓国鉄道技術研究院のいずれかに調査を委託する予定。調査期間は一年で、委託費は七千万ウォン(約七百万円)。

夢の一大プロジェクトである海底トンネル構想は、戦前からあった。一九九〇年には来日した盧泰愚・韓国大統領(当時)も語り日本側も関心を寄せていた。二〇〇〇年九月には日韓首脳会談でも金大中大統領が「海底トンネルができれば北海道と欧州までつながる。将来の夢として考えるべき問題ではないか」と建設の意欲を示していた。韓国がここにきて積極的な姿勢を示したのは、サッカーのワールドカップ(W杯)を前に、朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)と韓国を結ぶ京義線が復旧することが背景にあるようだ。また、技術的にも、アクアライン(東京湾横断道路)で用いられた掘削機を使って

掘り進む新しい工法が開発され「技術的には実現が可能になった」(大手ゼネコン)こともある。ルートについては、韓国側は釜山―対馬―九州北部を結ぶ総延長二百キロを想定しており、道路よりも鉄道の建設の方が有力だ。問題は莫大(ばくだい)な建設費。数年前に、韓国のシンクタンクが試算した論文では、「建設費は六兆円」とはじき出している。ただ、経済効果は約二十兆円ともいわれ、期待も大きい。